

平成28年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

～ 震災を乗り越えて、希望ときずなの里づくり ～

受賞団体：農事組合法人広田半島及び広田半島営農組合（岩手県陸前高田市）

◆むらづくりの背景・経緯

広田半島は、陸前高田市東南部に位置し漁業が盛んであるが、温泉も存在し、東日本大震災被災地の中では観光資源を維持できた数少ない地域である。狭隘な農地を大切に利用してきた歴史から、基盤整備事業を通じて農業を盛んにしようという意欲が高い。

広田地区では、基盤整備事業の導入に向け、平成18年から地域の営農体系及び農地利用について地域のリーダー的農家により検討が進められ、担い手による営農強化と地域の和を継承する営農構想を作成し、「広田半島営農組合」を平成21年12月に設立した。

翌年営農組合に参加している女性グループが農協から譲り受けた器具を生かして加工施設を設置、地元で伝承される味噌と海・山の幸を生かした“おやき”の製造を開始した。

平成23年3月の東日本大震災津波により、組合員、施設、機械、ほ場には甚大な被害が発生したが、生活再建、営農再開のために全国から受けた支援をきっかけに、「営農組合が地域の維持発展に寄与できる、強い経営体となる」を目標に平成27年4月に水田を利用して農産物を生産する「農事組合法人 広田半島」を設立し、加工を行う営農組合は引き続き存続・併設し、役割を分担しながら、一体となって活動中である。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

広田地区は中山間地域で、水田の区画も小さく農道幅員が狭いことから、効率的な営農の実現に向け平成21年から基盤整備事業を実施し、圃場の大型化や用排水路の整備などを実施してきた。

平成23年3月の東日本大震災津波により甚大な被害を被ったが、速やかに除塩を実施し、農業大学校等関係機関から農業機械や技術的な支援を受け平成23年度に1.2haの水田で栽培を再開した。

復興に向けて話し合いを繰り返し、平成27年に農事組合法人広田半島を設立し、地区の9割以上の水田を集積し営農を実施するとともに、水稻低コスト生産と地域内有機物循環、地力増進を目的に炭化鶏ふん肥料を本格的に活用した栽培を実施している。

○生活・環境整備面

高齢化の進む当地区において、法人が担い手となり復旧した農地の9割以上を集積し、耕作放棄地の発生を防止している。

また、6次産業化の取り組みと地元住民と交流できる加工施設「工房めぐ海」を平成22年11月に営農組合内の施設として整備し、“おやき”の製造により地域女性へ就労の場を再度提供することで地域の活性化に寄与している。



津波被害農地の
営農再開



海・山の幸の“おやき”の製造